

令和5年度 文教企業委員会行政視察報告書

1. 期 日 令和5年10月17日（火）～10月19日（木）
2. 視察委員 岩原昇（委員長），定森健次朗（副委員長），亀井聡美，院去裕，河原初海，山本良二，藤本哲智，渡辺一照
3. 視察都市

月 日	視 察 先	調 査 事 項
10月17日（火）	東京都墨田区	すみだG I G Aスクール構想について
10月18日（水）	埼玉県新座市	にいざG I G AスクールNEXT5.0について
10月19日（木）	神奈川県小田原市	小田原市G I G Aスクール構想について

4. 視察目的

呉市では、G I G Aスクール構想の実現に向けて、令和3年度から呉市立小・中学校に在籍する全ての児童・生徒に1人1台のタブレットを配備し、様々な教育活動を推進している。令和5年度はタブレットを導入して3年目となり、児童・生徒だけでなく、教職員も教育的効果を実感しているところである。

しかし、授業等での活用は進んでいるものの、蓄積された児童・生徒の教育データを利活用するには十分至っていないことや、タブレットの活用による教職員の働き方改革の推進、情報モラル教育の充実を図る必要性などの課題がある。

今後、より一層、授業改善や個別最適な学びを推進するためにも、本委員会では、「学校現場におけるタブレットの効果的活用について」を所管事務調査のテーマとして調査・研究することとし、先進自治体の取組等を今後の参考とするため、視察を行った。

5. 視察内容

(1) 東京都墨田区

①調査内容

東京都墨田区では、令和3年1月から墨田区立小・中学校の児童・生徒に学習用のタブレットを配付しており、タブレットを「学びのパートナー」として主体的に活用し、学びを深め、確かな学力を身に付け、高度情報化社会をリードしていく人材を育成することを目的として「すみだG I G Aスクール構想」を実施している。

G I G Aスクール構想について、教職員の理解を深めるとともに、計画的に推進していく方向性を示すため、「授業改善ロードマップ」を作成し、タブレットの効果的な活用方法をステップごとに設定し、児童・生徒や保護者にも分かりやすく示している。

また、家庭での自習学習の促進を主な目的として学習アプリを導入しており、授業の進行に合わせて、宿題等でも効果的に学習アプリを活用している。教員は、児童・生徒一人ひとりの学習の進行状況を把握し、適切な指導に当たるとともに、墨田区独自で学習状況調査を実施し、調査結果の分析を通じて、学力向上や改善に向けた取組を進めている。

②質疑応答

授業改善ロードマップや、学習アプリの活用・検証、子供のSOSを受ける取組などについて質疑が行われた。

③呉市での展開の可能性

呉市においても、令和3年度は、「とにかく使う」、令和4年度からは、「効果的に活用する」をスローガンとしてタブレットの活用を進めてきたが、児童・生徒の学力がどのように変化しているかなどの検証はこれからである。

そのため、墨田区独自で実施している学習状況調査などを参考とし、今後の検証に向けた調査などの取組が必要であると感じた。

(2) 埼玉県新座市

①調査内容

新座市では、令和元年度からICT環境整備に取り組み、令和3年5月には1人1台情報端末体制が整った。環境整備だけでなく、ICTを活用した学びの変革に取り組んでおり、令和4年からは市内全小中学校でAI型教材「Qubena（キュビナ）」を導入している。

また、これらのAI型アダプティブラーニング教材の活用による「学習の個別最適化」や、どこにいても考えを共有できる「協働的な学び」の仕組みづくりを行い、誰一人取り残すことのない教育の実現に向けた「にいざGIGAスクールNEXT」の取組を進め、令和3年には、全国市区町村公立学校情報化ランキングで全国1位となっている。

令和4年度からは、令和6年度までを見据えた「にいざGIGAスクールNEXT5.0」を新たに推し進めている。

②質疑応答

ICTを活用した教員の働き方改革、AI型教材「Qubena（キュビナ）」、「にいざGIGAスクールNEXT5.0」などについて質疑が行われた。

③呉市での展開の可能性

新座市では、緊急時や非常事態時においても学びを止めないよう、ハイフレックス授業の日常化を目指している。これは、学校や自宅など場所を区別することなく、同じレベルで受けられる個別最適な学びを保障するものである。

また、新座市はAI型ドリル教材「Qubena（キュビナ）」を積極的に活用しており、児童・生徒だけでなく、保護者からも大変好評とのことであった。

呉市では、児童・生徒へのタブレットの活用に係るアンケート結果において、「タブレットの使用は勉強の役に立つ」と感じている児童・生徒の割合が約97%であり、授業等において学びを深める上で、タブレットの学習効果を実感していると言える。

そうした中、呉市においても、今後は緊急時などに備え、ハイフレックス授業の検証等を実施する必要があると感じた。また、AI型ドリル教材「Qubena（キュビナ）」についても、呉市は令和5年1月から試験導入しているが、引き続き、積極的に同教材を活用する取組が必要であると感じた。

(3) 神奈川県小田原市

①調査内容

小田原市では、情報モラル教育の教材として「G I G Aワークブックおだわら」を作成している。

本教材は、児童・生徒がICTを活用した教育を学ぶ中で必要となる社会力を育成するための教材で、小学校下学年用、小学校上学年用、中学校用の3種類があり、発達段階に合わせて活用することができる。

また、デジタル教材や個別学習ソフトウェアなどを活用し、自分が疑問に思うことを深く調べたり、自分に合った進度で学習を行うため、個別学習ソフト「ドリルパーク」を導入するとともに、児童・生徒同士の意見交換や発表にタブレット端末を活用し、お互いを高め合う学習の充実を図るため、授業支援ソフト「オクリンク」を導入し、積極的に活用している。

②質疑応答

児童・生徒の情報モラル教育、「G I G Aワークブックおだわら」・「ドリルパーク」・「オクリンク」の活用などについて質疑が行われた。

③呉市での展開の可能性

呉市では、児童・生徒のタブレット活用が進む一方で、一部で許可なくフィルタリングを解除したり、タブレットを介した児童・生徒間トラブルが生じたりしている。そのため、「G I G Aワークブックおだわら」を参考とするなどして、児童・生徒の発達段階に応じた情報モラル教育を家庭・保護者と一体となって実践していくことが必要であると感じた。